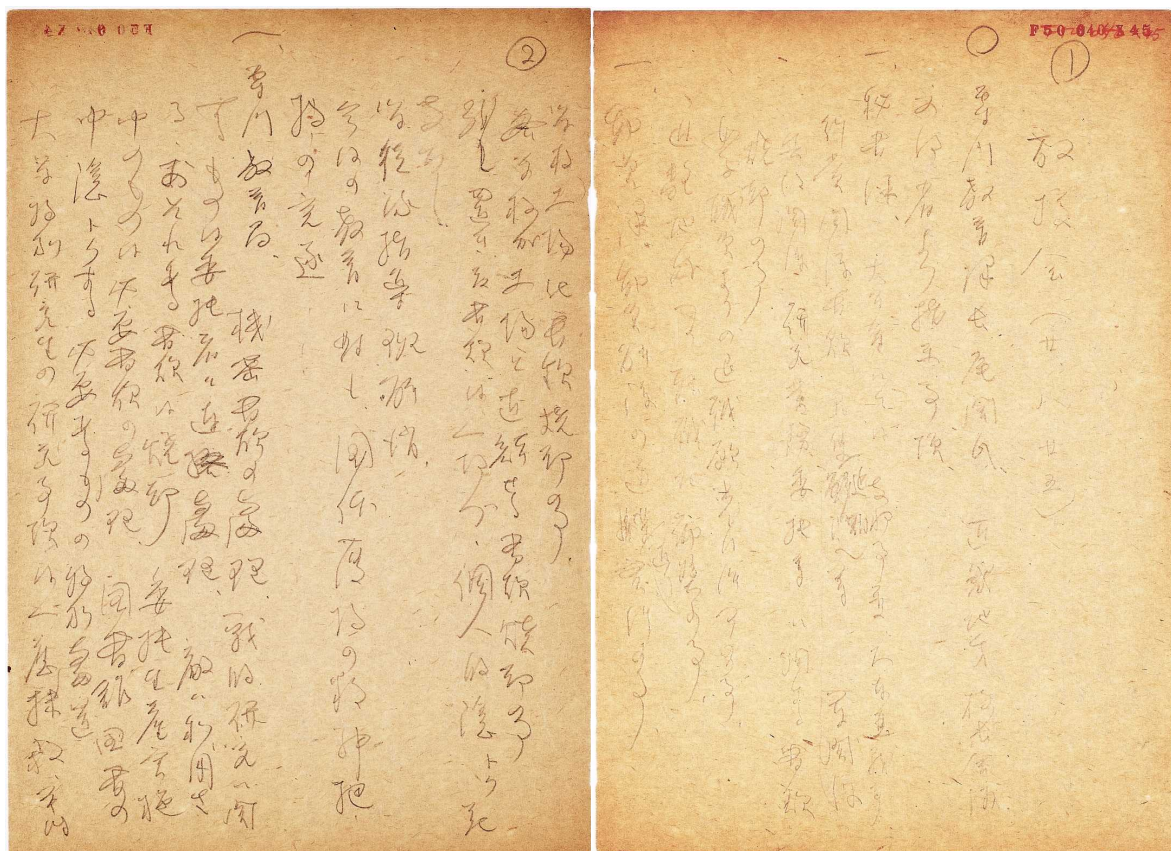


敗戦直後の大学の状況、占領軍への研究報告

第2次世界大戦終結の1945年8月15日から1952年4月28日まで、日本は米国を中心とした連合国軍の占領下にあった。占領軍は指令第1号（1945年9月2日）で、日本軍の武装解除に並んで、一切の軍事機関と軍事に関係した研究所などの保全と報告を命じた。この指令を具体化した指令第3号では、原子力研究の禁止とともに、一切の科学・技術機関に対し、前月の詳細な活動報告を毎月提出するよう命じた。

一方、来日した原爆調査団は、報告書の結論に、「指令第3号に注意すべし。特に、日本における核物理学研究の規制を命じた部分に留意すべきである。規制対象とすべきは次のグループである。」として4グループと5人の氏名を明記した。そこには理研グループ（指導者：仁科芳雄）、東大グループ（指導者：嵯峨根遼吉）、京大グループ（指導者：理論物理学者湯川秀樹、実験物理学者荒勝文策）、阪大グループ（指導者：菊池正士）が挙げられていた。

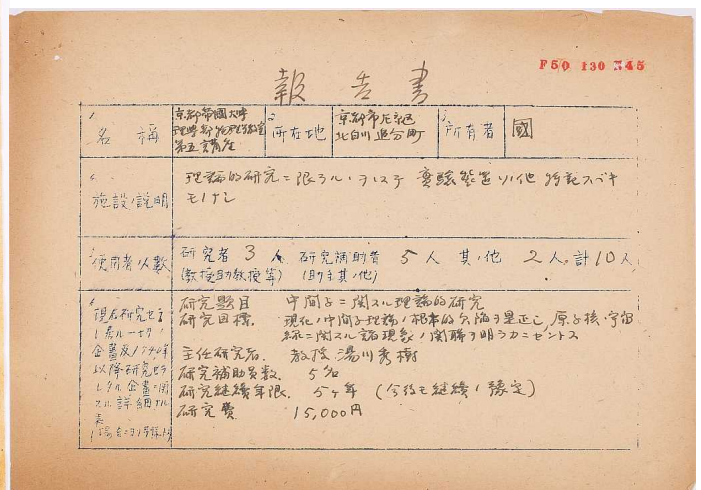
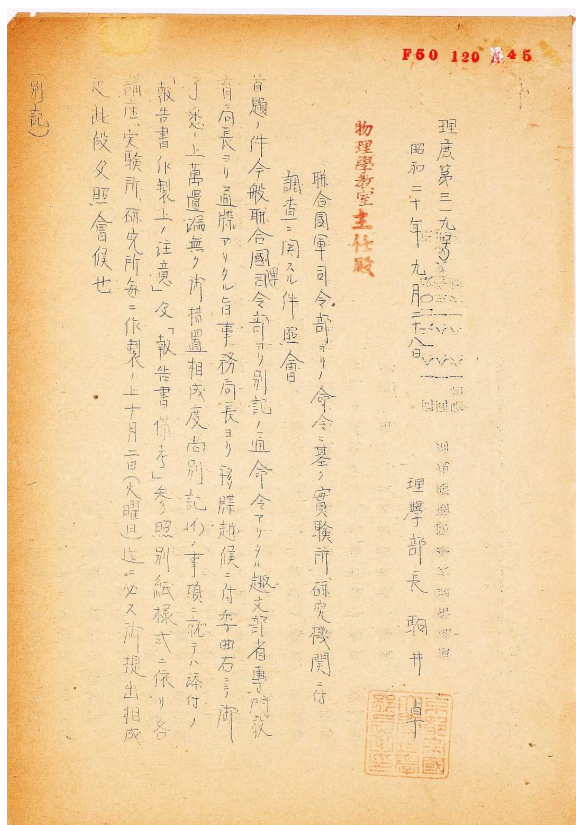
これらのことは以前から明らかだったが、具体的に戦時体制がどのように変更され、活動がどのように規制されていったかを示す資料が、湯川記念館史料室に残されている。注目に値する資料の一つは、戦後10日目（1945年8月25日）の京大理学部教授会の湯川による手書きメモ（s04-08-005、F50-040-X45）である。「文部省からの指示事項」として、



教授会（廿、八、廿五）メモ（F50-040-X45）第1枚目（左：裏、右：表）

焼却すべき書類、研究テーマの変更、「航空物理学」講座を「物理学第七講座」に変更、研究題目の変更などが具体的に記録されている。さらにこの日に9月3日には学生への授業開始、22日には卒業式を挙行することも決定された。

この少しあと、9月28日の理学部長から物理学教室主任宛の「連合国軍司令部よりの命令に基づく実験所・研究機関に付調査に関する件照会」との書類（s04-08-013、F50-120-X45）がある。湯川は教室主任であった。ここで、現在の一切の研究、1940年以来の研究の詳細、前月中の研究について毎月初めに報告を提出すること、ウラン235の分離研究の禁止などが各教室レベルにまで通達されたのだった。湯川の報告書（案）（s04-08-014、F50-130-X45）には「中間子に関する理論的研究」に従事してきたこと、今後も継続の予定などが書かれている。別の報告（案）（s04-09-032、F51-251-N46）には、「戦時研究」について「戦時研究員（1945 内命 正式発令なし）」として京都帝国大学において「原子核反応の理論」に従事していたことも書かれている。（文責：小沼通二）



左：「連合国軍司令部よりの命令に基づく」調査の書類（s04-08-013、F50-120-X45）

右：湯川の報告書（案）（s04-08-014、F50-130-X45）第1ページ

informal order, preparatory, May 1945

- 氏名(フリガナ) 湯川秀 清
ユカワ ヒデキ
- 出生 1月23日, 1907, 東京府 本籍地 兵庫県西宮市
- 所属機関名 京都帝國大学理学部
- 教育履歴 (高等学校以上)
第三高等学校 卒業 (1926)
京都帝國大学理学部 物理学科卒業
- 卒業年度 1929
- 博士論文及受賞
博士論文名 理學博士 受領月日 4月5日, 1938
名譽賞 1) 服部報公賞 受領月日 10月10日, 1938
2) 帝國學士院恩賜賞 受領月日 5月13日, 1940
3) 野間學術賞 受領月日 12月10日, 1941
4) 文化勲章 受領月日 4月29日, 1943
- 過去及現在地位
a. 地位 1) 本籍
2) 京都帝國大学教授 在任期間 5月26日, 1939 まで 現在=別紙
5) 京都帝國大学化学研究所長 1月13日, 1943 まで 現在=別紙
4) 京都帝國大学教授 11月26日, 1942 ~ 1月28日, 1946
6) 學術研究會談員 4月17日, 1943 まで 現在=別紙
3) 理化研究所研究員 6月17日, 1940 まで 現在=別紙

10月27日, 1945 ~ 2

- 評定者
a) 大阪帝國大学物理教授 3月31日, 1936 ~ 5月26日, 1939
b) 帝國理工学会 内定無き
所属学会
日本物理学会 常務 理事
日本数学会 常務
日本科学史学会 常務
専門分野 (統計力学,
理論物理学, 特=量子力学, 素粒子論, 宇宙論,
宇宙物理学, 科学史)
9. 戦時中ノ研究
戦時中ノ所属研究組織 不詳 戦時研究 (戦時)
地位 戦時研究員 研究場所 京都帝國大学
研究項目 原子核反復, 理論 (内容紙1945 内容紙)
正式発表なし
10. 發表論文 (過去=特々重要+研究論文)
1) 素粒子相互作用=論文 (英文), 日本数物理学會記事,
第17巻 (1935) 48頁 (戦時論文)
2) ビーター崩壊及 π^0 崩壊=論文 (英文), 理論 (英文), 坂田男一, 日本数物理学會記事, 第17巻 (1935)
467頁, 同上
3) 軌道電子, 吸収=電子原子核轉換=論文 (英文, 坂田男一), フィジカル・リヴュウ, 第51巻 (1937), 677頁
4) 宇宙線組成成分, 崩壊=論文 (英文), 日本数物理学會記事, 第19巻 (1937), 712頁
5) 素粒子相互作用=論文, II (英文, 坂田男一), 同上, 第20巻 (1938), 1084頁
6) 同上, III (英文, 坂田男一, 式谷三男)
同上, 第20巻 (1938), 1073頁

別の報告(案) (s04-09-032、F51-251-N46)。「9. 戦時中ノ研究」の項がある。